仙台市市民協働事業提案制度
平成25年度事業　報告会

震災メモリアル・市民協働プロジェクト

伝える学校

事業報告

【協働主体】
仙台市
一般社団法人MMIX Lab
NPO法人20世紀アーカイブ仙台

震災メモリアル・市民協働プロジェクトとは

【仙台市震災復興計画】
一〇〇万人の復興プロジェクト

①「津波から命を守る」津波防災・住まい再建プロジェクト

②「安全な住まいの土台をつくる」市街地宅地再建プロジェクト

③「一人ひとりの暮らしを支える」生活復興プロジェクト

④「力強く農業を再生する」農と食のフロンティアプロジェクト

⑤「美しい海辺を復元する」海辺の交流再生プロジェクト

⑥「教訓を未来に生かす」防災・仙台モデル構築プロジェクト

⑦「持続的なエネルギー供給を可能にする」省エネ・新エネプロジェクト

⑧「都市活力や暮らしの質を高める」仙台経済発展プロジェクト

⑨「都市の魅力と復興の姿を発信する」交流促進プロジェクト

⑩「震災の記憶を後世に伝える」震災メモリアルプロジェクト

震災メモリアル・
市民協働プロジェクト

市民協働で取り組んでいくための
仕組みづくりを進める。

市民協働
事業
提案制度

協働パートナー①　一般社団法人ＭＭＩＸ　Ｌａｂ

●津波でねじ曲がった公共物等を残し震災を後世に伝える「3.11 メモリアルプロジェクト」
●津波が来た地点に桜を植樹していく「桜プロジェクト」

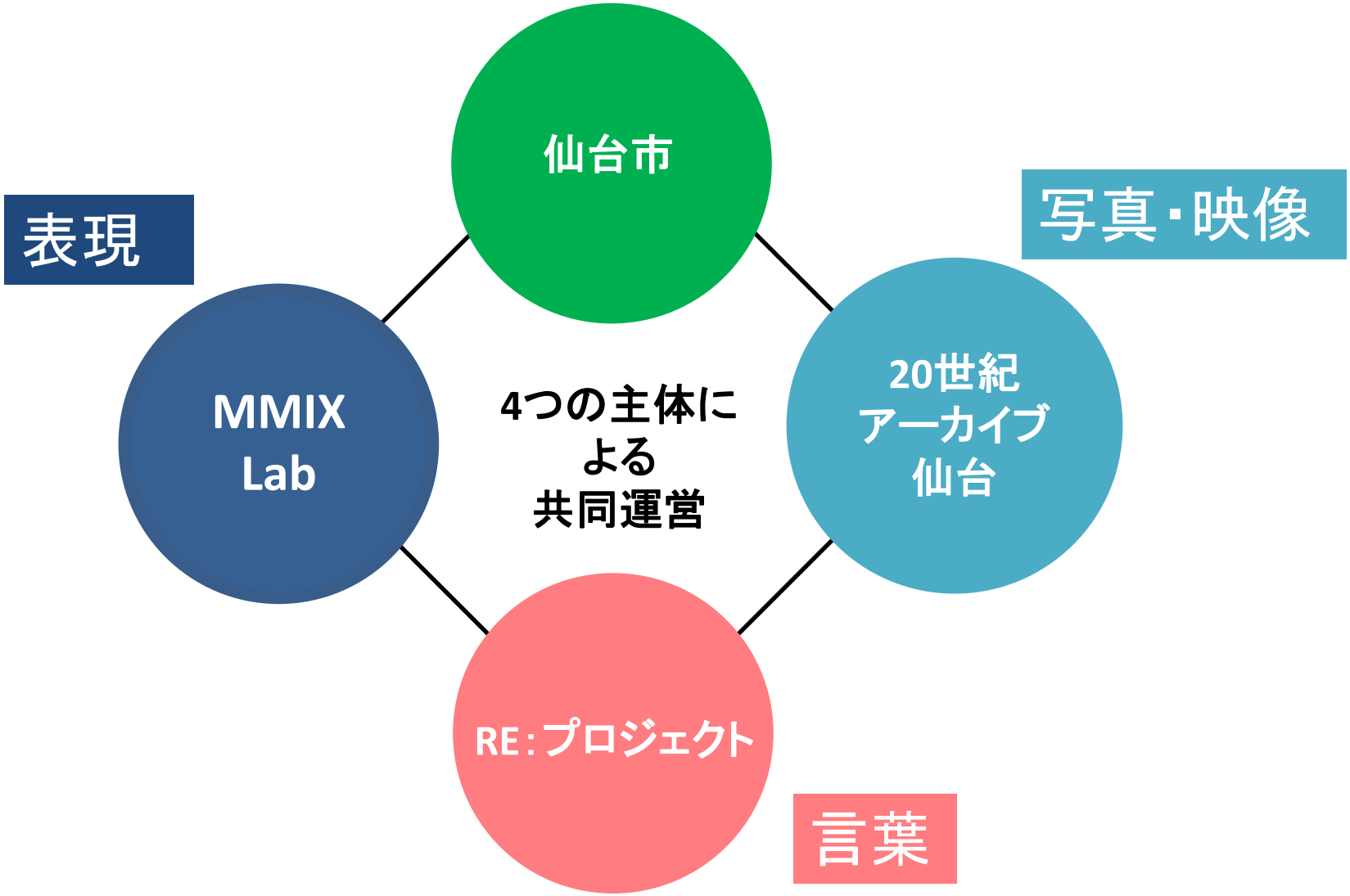
協働パートナー②　ＮＰＯ法人20世紀アーカイブ仙台

2011年3月18日
キリンビール工場付近仙台市宮城野区
（撮影／村上ゆかりさん）

2012年4月30日
（撮影／20世紀アーカイブ）

●被災直後の写真と同じ場所を記録し続ける「定点観測」の実施
●避難所・仮設住宅での上映会「お茶っこサロン」の開催
●「3.11市民が撮った震災記録」ウェブサイト立ち上げ

「伝える学校」の運営体制



「伝える学校」事業目的

震災を語り継いでいく仕組みづくりに
市民が積極的に参加できる状況をつくること

＋

協働団体の専門性や
これまでの活動において創出されたノウハウやネットワークが
存分に事業に還元されること

↓

仙台らしい震災メモリアル・市民協働プロジェクトの構築

「伝える学校」事業目的

仙台らしい震災メモリアル・市民協働プロジェクトの構築

【東日本大震災における仙台の特徴】
市民一人一人がさまざまな形で東日本大震災を経験したこと

↓

震災の時の状況が人それぞれであるように、
「伝えたいこと」「伝える視点」も
当事者の数だけあるのではないだろうか。

市民ひとりひとりが持つ「伝える視点」を引き出し、
市民の多様な発信へとつながる仕組みづくりを目指す

「伝える学校」平成25年度の取組

【平成25年度の取組】
これまでに「震災を伝えること」に取り組んできたゲストを招いて、
その「伝える視点」を学び、自分自身の伝え方に還元していけるよう講義を開催。

開催日	講義テーマ	担当団体
9/21	3.11をアートで伝える	MMIX Lab
10/19	震災アーカイブをミライに伝える	20世紀アーカイブ仙台
11/16	見たこと・聞いたことを言葉で伝える	RE:プロジェクト
12/7	記憶をアートで伝える	MMIX Lab
1/19	1995年と2004年の震災アーカイブを伝える	20世紀アーカイブ仙台

ＭＭＩＸ　Ｌａｂ

2013.09.22

3.11をアートで伝える

《ゲスト講師》
開発好明（美術家）
清水敏男（学習院女子大学教授）

2013.12.07

記憶をアートで伝える

《ゲスト講師》
和合亮一（詩人）
長田謙一（名古屋芸術大学大学院教授）

●「なぜ、この表現に至ったのか」アーティストの視点を学ぶ
●災害と対峙する際のアートの存在の普遍性
●市民社会の成熟が表現を支える

20世紀アーカイブ仙台

2013.10.19
震災アーカイブをミライに伝える

《ゲスト講師》
長坂俊成（立教大学教授）

2014.01.19
1995年と2004年の震災アーカイブを伝える

《ゲスト講師》
高森順子（阪神・淡路震災記念館　人と防災未来センター）
山崎麻里子（長岡震災アーカイブセンター　きおくみらい）

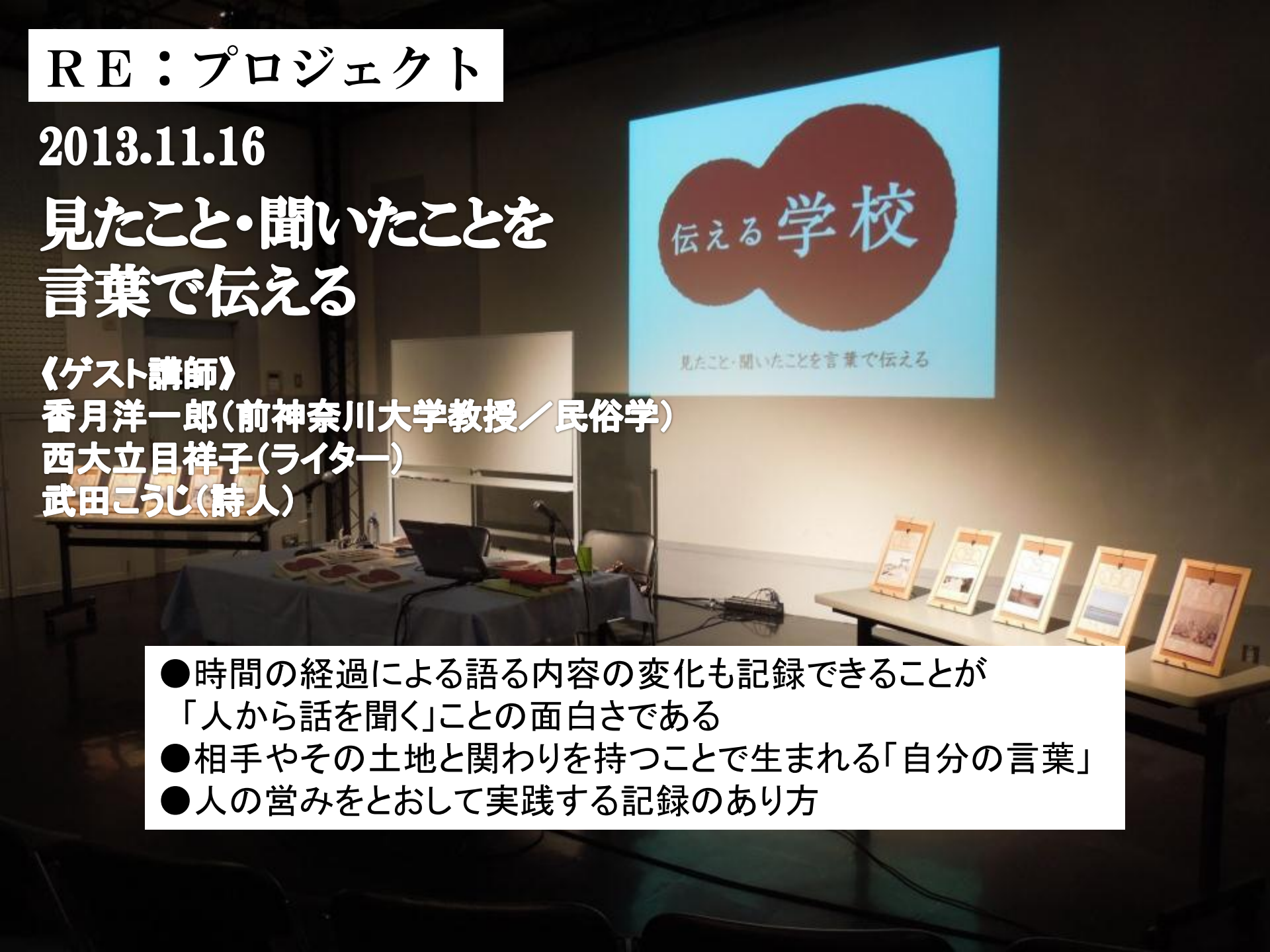
●収集だけではない、データの活用まで見据えた震災アーカイブの在り方とは
●過去の災害における実践者を交えて意見交換

ＲＥ：プロジェクト

2013.11.16

見たこと・聞いたことを言葉で伝える

《ゲスト講師》
香月洋一郎（前神奈川大学教授／民俗学）
西大立目祥子（ライター）
武田こうじ（詩人）



●時間の経過による語る内容の変化も記録できることが「人から話を聞く」ことの面白さである
●相手やその土地と関わりを持つことで生まれる「自分の言葉」
●人の営みをとおして実践する記録のあり方

「伝える学校」講義について

3.11をアートで伝える

震災アーカイブをミライに伝える

見たこと・聞いたことを言葉で伝える

記憶をアートで伝える

1995年と2004年の震災アーカイブを伝える

「伝え方」の多様さを実感

↓

だからこそ「市民ひとりひとり」というレベルでの伝え方も可能なのではないか

市民協働による震災メモリアルの構築の可能性を実感

「伝える学校」講義について

3.11をアートで伝える

震災アーカイブをミライに伝える

見たこと・聞いたことを言葉で伝える

記憶をアートで伝える

1995年と2004年の震災アーカイブを伝える

ゲスト講師の「伝える視点」を学ぶことをとおして

①その視点から自分自身の行動につながるような
気づきを得ている

②「伝える」という視点をとおして
今一度震災のあった仙台を振り返っている

2014.3.16
伝える学校の学級会

それぞれの団体が独自の視点でピックアップした
「身近で“震災を伝える活動”を実践している市民」を招き、
これからの伝え方について参加者とともに車座になって座談会を開催

●立場の違いから、
改めて「自分だからこそ持つことができる“伝える視点”は何か」を考えるきっかけになった。

●市民が潜在的に持つ震災に関する興味・関心をしっかりと育てることが、
地域や世代を越えて「“伝えたいこと”を伝える」ことにつながるのだと実感。

「伝える学校」における協働のメリット

①専門性の高いプログラムを市民に提供

それぞれに専門性を有した協働団体が、行政が達成したい事業目標を理解し、その上でプログラムを考えてくれたからこそ、参加者の満足度も高い講義になった。

それぞれが持っている資源を出し合う協働の形

②多様な情報発信の実現

〇パンフレットの制作
〇ウェブサイトの構築
〇フェイスブック等のソーシャルネットワークからの発信
〇それぞれの団体が所有するウェブサイトからの情報発信・・・等

連携することで情報発信のツールが増え、さまざまなメディアを通じて市民に情報を届けることが可能となった。

役割分担により、実務面でも大きなメリット

「伝える学校」における協働のメリット

③個々のネットワークを活かした活動の広がり

2013年8月18日
「伝える学校」
プレ講義

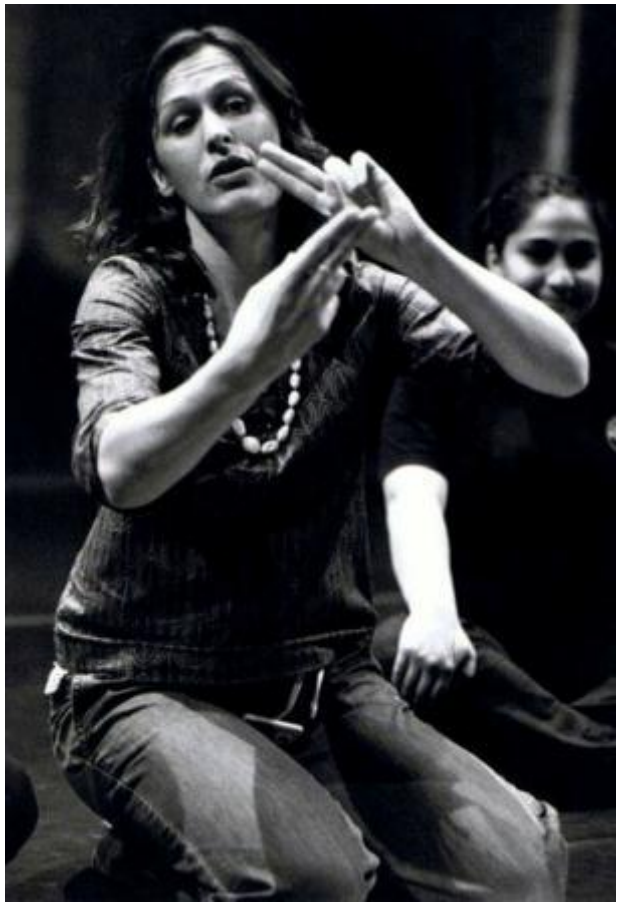
「伝える学校」における協働のメリット

③個々のネットワークを活かした活動の広がり

2013年11月4日
仙台市
震災メモリアル等
検討委員会での展示

「伝える学校」における協働のメリット

③個々のネットワークを活かした活動の広がり



2014年2月12日
伝える学校・特別編
「世界に伝えること」
ジョー・パークス
（振付家）

異なる資源を持ち合わせた団体による協働の強み

「伝える学校」における協働のメリット

MMIX　Lab

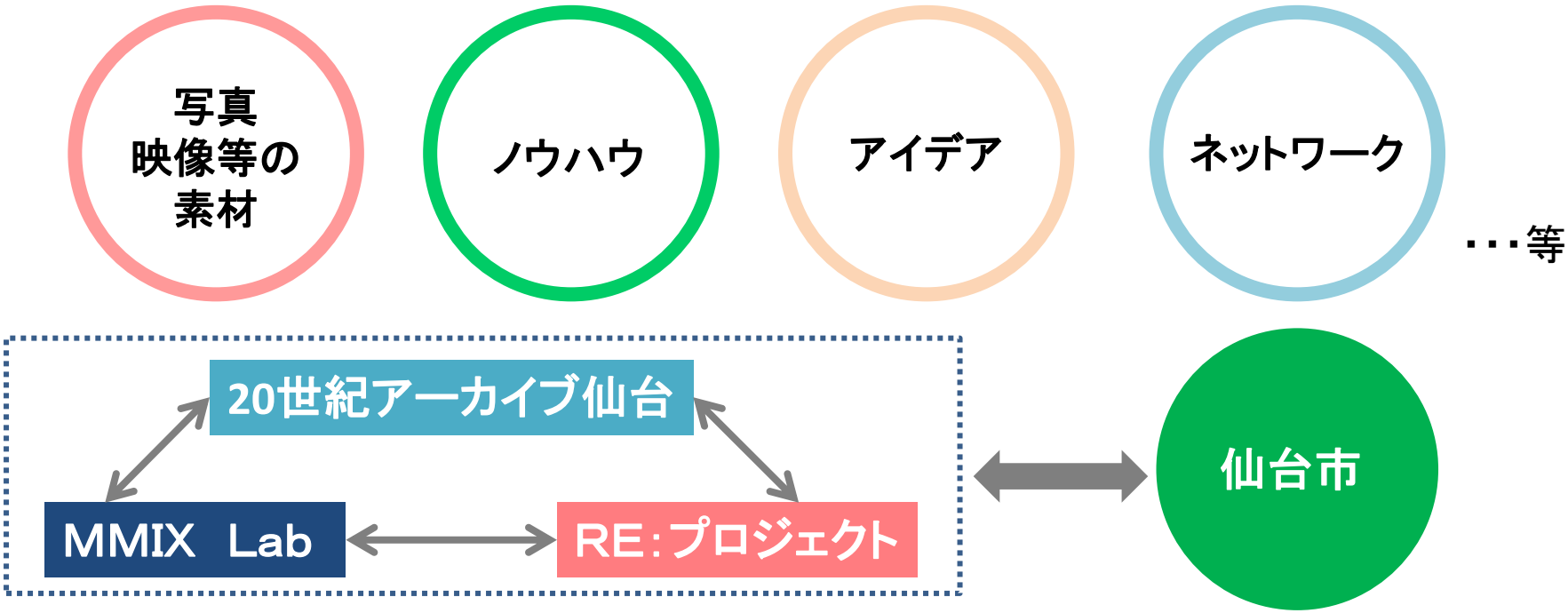
20世紀アーカイブ仙台

「行政との連携の実績が、団体の信頼性の向上につながった」

「伝える学校」これからの課題

それぞれが持つ資源をより活用しながら事業展開を図るための情報共有

それぞれの団体の強みを理解



◎「伝える学校」における連携強化
◎枠組みを越えた「震災メモリアル」の構築

「伝える学校」今後の取組

各団体の専門性を存分に活かす

事業への市民参加の促進

講義 ＋ MMIXゼミ　20世紀ゼミ　RE:プロゼミ

誰でも参加できる／おしゃべりしながら考える場

明確な参加意識を持って、
スキルや知識を身につけていく場

さまざまな参加のレベルを設けて、市民の参加性を高める

「仙台ならではの震災メモリアル」を市民参加で構築

国連防災世界会議でお披露目